



# The Sinfonietta

第5回 演奏会



1991年7月21日(日) 18時30分開演  
県立劇場コンサートホール

■主催/ザ・シンフォニエッタ  
■後援/熊本県・熊本日日新聞社・NHK熊本放送局・RKK



# PROGRAM

プログラム

■シューベルト／

ロザムンデ間奏曲第3番D. 797

■モーツァルト／

ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調K. 219

---

休憩

■シューベルト／

交響曲第9番八長調D. 944「ザ・グレート」

ヴァイオリン独奏／安永 徹

指 揮／山下 一史

管 弦 楽／ザ・シンフォニエッタ



熊本県知事  
福島 譲二

## ザ・シンフォニエッタの 活躍を期待します。

ザ・シンフォニエッタ第5回演奏会の開催を心からお喜び申し上げます。

本県では、豊かで明るく、文化の香り高い、ゆとりのある環境づくりをめざして、さまざまな施策に取り組んでおりますが、そのためにも県民の皆様の文化活動は欠かすことのできないものでございます。喜ばしいことに、本県の音楽活動は年々盛んになってきておりますが、そのなかでもザ・シンフォニエッタの活動には、大きな関心を寄せているところです。

これまでの公演では、団員の皆様の音楽にかけるひたむきな情熱が伝わってくる演奏で、多くの観客を魅了してこられました。今回は第3回の演奏会と同じく、ソリストにベルリンフィルのコンサートマスター安永徹氏を迎え、NHK交響楽団副指揮者の山下一史氏の指揮によるものとうかがっております。このような一流の音楽家との共演が今回も実現することになったのは、団員の皆様の音楽に対する真摯な御努力の賜物であると思います。

本日の演奏会では、前回にもまして充実した響きを聴かせていただけることでしょう。

ザ・シンフォニエッタの皆様の今後の御活躍を期待しますとともに、本日の演奏会の御盛會を祈念いたします。

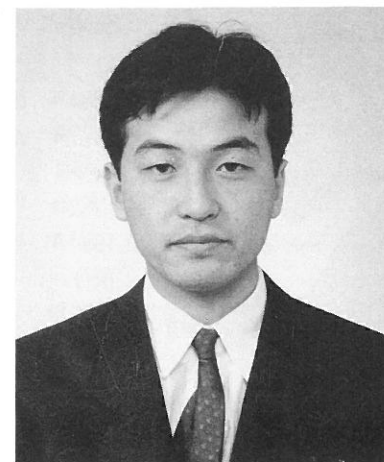
## 音楽のすばらしさをお伝えしたい…

本日は、私どもThe Sinfoniettaの第5回演奏会においていただき誠にありがとうございます。

The Sinfoniettaは今夜の安永徹氏・山下一史氏をはじめとする数多く優れた音楽家の方々に指導をうけられるチャンスに恵まれ、また音楽以外の面からも物・心両面から様々な、援助を下される方々に支えられて活動ができる、とても幸せなオーケストラとすることができます。

メンバー一同、外的条件に見合うだけの演奏ができるようにと約10ヶ月練習を重ねてきました。が、もちろん技術のないアマチュアですので、いたらない所もたくさんあります。ただ技術的には足りない点があっても、音楽のすばらしさを伝えることはできると信じています。今夜そんな演奏ができてお客様に満足していただければ非常に幸いに存じます。

末筆になりましたが、私どもを援助していただいたみなさんに心から御礼申し上げます。



The Sinfonietta  
代表  
坂本 一生



■指揮／山下 一史

1961年 広島県に生まれる。  
 1977年 桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、(故)森正の各氏に師事。  
 1982年 「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。  
 1984年 桐朋学園大学を卒業後、西ドイツのベルリン芸術大学に留学して研鑽を積む。  
 1985年 12月よりヘルベルト・フォン・カラヤン氏の亡くなるまで、彼のアシスタントをつとめる。  
 1988年 6月、デンマークで開かれた「ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール」で優勝。9月、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「第九」演奏会で、予定のカラヤン氏急病の為、急遽ジーン姿のまま代役をつとめ、好評を博し、話題となった。また、1986年以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。  
 1987年 1月、デンマーク放送交響楽団をはじめ、デンマークの主要オーケストラと共演。  
 1988年 1月、第14回「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮、ストラヴィンスキーの舞踏組曲「火の鳥」を演奏。衝撃的なN響デビューを飾る。9月、副指揮者を置かなかったNHK交響楽団から指名を受け、契約。12月、早稲田大学オーケストラとフィリピンに演奏旅行、アキノ大統領臨席の演奏会を指揮。  
 1989年 2~3月、早稲田大学オーケストラとヨーロッパ、アメリカ演奏旅行を行う。同年4月には、NHK交響楽団定期演奏会の指揮者に抜擢され、好評を得ている。この他日本国内の主要オーケストラとの共演も多く、定期演奏会をはじめ、各種コンサートでの評価は高く、今後最も期待される若手指揮者のひとりとして、確実なキャリアを築きつつある。1988~NHK交響楽団副指揮者。1990年4月、オーケストラ・アンサンブル・金沢 プリンシパル・ゲスト・コンダクターに就任、現在に至る。  
 《1991年5月1日》



■ヴァイオリン・コンサートマスター／安永 徹

1951年福岡生まれ。江藤俊哉氏に師事。桐朋学園大学在学中、第40回音楽コンクール第1位。75年ベルリン音楽大学入学。M. シュヴァルベ氏に師事。77年ベルリン・フィル入団。以来オーケストラ活動他、「ベルリン弦楽ソリスト」「ニッポン・オケテット」等のリーダーとして日本、ヨーロッパ全域などで活躍。  
 83年遂に弦楽器奏者の頂点ベルリン・フィル第一コンサートマスターに就任。世界第一級の音楽的才能と人間的誠実さ、そしてリーダーシップを兼ね備え、我が国音楽界の「誇り」といわれている。  
 初のソロCD(安永徹ヴァイオリン・リサイタル、ピアノ:市野あゆみ)で平成2年度文化庁主催の芸術祭「作品賞」を受賞。

■ロザムンデ間奏曲 第3番 D.797

1823年12月の作。正確には、「キュプロスの女王、ロザムンデ、四幕のロマン的劇」。しかし、残念ながら脚本は現在残っていない。

間奏曲第3番は、変ロ長調四分の二拍子アンダンティーノ。この間奏曲の美しい旋律は、1824年3月完成の「イ短調弦楽四重奏曲」の第二楽章及び、1827年12月のピアノのための即興曲変ロ長調にも使われている。2つのトリオは、作曲者によってそれぞれミノーレ第1(ト短調)、ミノーレ第2(変ロ短調)と記されている。

(演奏時間/約8分)

■ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調 K.219

モーツァルトは7曲のヴァイオリン協奏曲を作曲している。はじめの5曲は〈ザルツブルグ協奏曲〉と呼ばれ、1775年に集中して作曲された。この第5番は、一連の作品の最後の曲で、堂々とした規模をもった作品である。

モーツァルトは、人を楽しませる事を目的としたフランスの外面的な作曲スタイルを、この曲に於て見事に完成した。メロディーは華々しく魅惑的であり、構成は変化に富んでいる。

終楽章の中間部に、トルコ行進曲のリズムが出て来るため「トルコ風」と呼ぶこともある。

第1楽章 アレグロ・アペルト イ長調 協奏風ソナタ形式

第2楽章 アダージョ ホ長調

第3楽章 ロンド テンポ・ディ・メヌエット イ長調

(演奏時間/第1楽章約9分、第2楽章約10分、第3楽章約8分)

■交響曲第9番八長調 D.944「ザ・グレイト」

「歌はもうやめた。オペラと交響曲だけにする。」—歌曲の王と言われる、フランツ・ペーター・シューベルトがそう言ってこの壮大な交響曲を書きおろしたのは、1828年3月、彼の死のわずか9ヶ月前のことであった。シューベルトの交響曲のうち、このグレイトと双壁を成す第八番「未完成」が女性的な抒情性に満ちているのに対し、グレイトには男性的な活気や未来への希望がみなぎる。

シューマンをして「天長的な長さ」と言わしめたこの曲は、単なる小節数の多さ、演奏時間の長さなどではなく、音楽的な規模、曲のもつ力の大ききこそが、この曲の「グレイト」たるゆえんである。

第1楽章 アンダンテ・アレグロ・マ・ノン・トロppo ソナタ形式

第2楽章 アンダンテ・コン・モート 大規模なリート形式

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ スケルツォ形式

第4楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ ソナタ形式

(演奏時間/第1楽章約13分、第2楽章約14分、第3楽章約14分、第4楽章約11分)

## ●「山下一史が語る」The Sinfoniettaと今夜の演奏会 やっぱりあれは大シンフォニー 本当に“グレート”だよね。

——— 今回がThe Sinfoniettaの3回目のタクトなのですが…？

山下：プログラムの事から言えば、1回目がベートーヴェンの交響曲第2番、2回目がモーツァルトの39番、そして今回がシューベルトの「ザ・グレート」。これは前の2回に比べれば一足飛びに難しい曲だよね。この「ザ・グレート」をやりたいって言ったのは僕だけれど、はっきり言って“できるかな？”って気持ちはあった。確かに僕が練習にあまり来られないって事もあって難しい場面もあるけどさ、今日なんかみんな少しずつ見えてきた感じがするんだよね。すごく弾けるようになった—と、いうんじゃないけれど、だんだん僕の言う事が本当に分かるようになってきた気がするんだよね。今日の反応を見ているとね。だから、この選曲は間違っていなかったと僕は信じてたい。

一回目は田中さん(元NHK交響楽団コントラバス奏者)にやいのやいのと言われた事もあってみんなの中に火が灯ったって感じで、みんなよく頑張ったよな。

2回目っていうのは1回目に負けたくないってことで頑張れた。で、3回目ってのはみんなの向かっていく方向がちょっと見えなくなってしまったという所があるのかも知れないね。3回目はどこかに新しい一歩を踏み出さなくてはいけないからすごく難しい。1回目から3回目まではみんなすごいソリストが来てるけれど、外からの要因じゃなくてそろそろ自分の力で成長できるようになるといいね。

——— では、今回の演奏会についてはいかがでしょうか？

山下：The Sinfonietta をずっと聴いていらしたお客さまにはThe Sinfonietta もこんな大変な曲に取り組む事になりました。その成果を聴いていただきたい。今までに比べて格段に難しいですよ。又、初めてのお客さまには名刺を渡すようなものでThe Sinfonietta はこんなオーケストラですよ、っていうのを聴いて欲しい。

——— 1曲目のロザムンデについて…

山下：とっても可愛い、しゃれた曲ですよ。すごく気分がホンワカして優しいね。僕はけっこうあの曲、テンポが他の指揮者より動くのね。でもあの曲はそれが許されるような気がするんだよね。ふつうのロザムンデとはちがうかもしれないけど、きっと楽しんでいただけたと思います。すごくチャーミングな肩のこらない曲だし、音楽会のオープニングでもあるし、お客さまも気軽に聴いてほしいです。

——— モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番について…

山下：これはもう、安永さんの名演を聴いていただくとしかないですね。モーツァルトってのはさりげなく素晴らしい曲を書く人で、そのさり気なさが難しいんだけど、この曲も例外じゃなくて特別な事は何も無いのだけれどメロディーはきれいだし、いい曲だよね。

例えば1楽章はアレグロって書いてあるけれどけっこう(テンポは)遅くて、今の世知辛い、時間に追われた生活をしている世の中とは全く対極に在る音楽だよね。本当にゆったりしてるよね。

2楽章も歌があって、でもその歌はアパシオナート(情熱をもって)とかエスプレシーヴォ(感情表現豊かに)とは全く対極の平安とか安らぎとか、そういう世界だね。

3楽章はちょっと遊んでる所があるけど、とにかく余裕があるよね。日頃僕たちがなくしてしまったような余裕がああヴァイオリン協奏曲にというか、モーツァルトにはあって、それをどう演奏するか、だね。

——— 「グレート」をどうして山下さんは選んだんですか？

山下：ぜひ、「グレート」をやりたいって思ったんだよ。別にどこかで素晴らしい演奏を聴いたというふつうではないんだけど、曲自体のすごさに惹かれるね。やっぱりあれは大シンフォニー本当に“グレート”だよね。ふつうシューベルトっていうと、ちょっと女性的にイメージで捕らえることが多いけれど、僕は絶対に間違いだと思う。シューベルトにはもっと断固としたもの、決然としたものがあると思うけれど「グレート」は正にそのものでしょ。あれこそシューベルトだよ。

——— 1楽章について…

山下：序奏は何と言うか堂々としてるよね。非常に確かな歩みはずっとあるよね。それにすごく気品があるし—。僕も最初、譜面を見た時は序奏の終わりでアチェラランド(だんだん速く)しているから、主部のアレグロは速く見えた。でもぜんぜん違うよ。そんな軽いというイメージは違うと思う。そこら辺をお客さまに感じてもらえるといいね。

——— 2楽章について…

山下：2楽章も、また僕好きでさ、シャレているんだけど、しっかりしているわけ。木管のメロディーの下で弦がしっかりリズムを刻んでいるでしょ。今日の練習でも、みんなの体の中にリズムが入ってくるとちょっと信じられない位、いい音がするよね。フォルテシモの所を僕が「きめろ！」って言ったら本当にきまったもの。これがアンサンブル。アンサンブルっていうのは弾く、弾けないって事よりもイメージだよ。みんなの音楽に対するイメージが一つになった時、相当インパクトが出てくるんだよね。そして、そのフォルテシモの後で、2ndヴァイオリンのメロディーが出てくる訳でしょ。このメロディーでいつも僕

思うけれど、愛って二つあると思うんだ。一つは男女間の愛に代表されるような何かドロドロとしたものがあって、時にはその愛のために人を殺しちゃったりするようなもの。もう一つは親が子を愛するとか、神が人間を愛するといった慈愛。ここは完璧に慈愛だよ。慈しむ愛。ものすごく大きい慈しみの愛で誰かが見ているって気がする。そういう意味で天国の音楽だよ。チェロとコントラバスが鐘のようにラ～、ラ～、ソ～、ソ～、となって木管のきれいなハーモニーが響いている中から2ndヴァイオリンがああ節をやるんだよ。まあ、素晴らしいね。あれがそして1stヴァイオリンじゃなくて2ndってところがいいね。1stが弾くとちょっと当たり前っぽくなるけれど、2ndだから内から歌が出てくる感じがするよね。

——— 2楽章って後ですごい音楽も出て来ますよね。

山下：あれはまだ、みんな持続が足りないね。一気呵成に行くところでしょ？途中で息が切れちゃうね。最後まで行ったところでやっと我にかえってピチカートに乗ってチェロが弾く所だと思うよ。チェロのメロディーも、あれ、絶対男性的なメロディーだよ。

——— 3楽章がまた、全然別の音楽が始まりますよね。

山下：あれはやっぱり、スケルツォの軽快さがひとつ。だから軽く！軽く！トリオ(中間部)がまたいいよね。管楽器の非常に開放的なメロディーがあって、楽譜通りのリズム(♪♪♪|♪)を少しくずしてウィーン風にした伴奏があっていいねえ。開放的と言ってもだらし無くなるんじゃないで、本当に解放されて一段別の世界を見るって事があると思うけど、あのトリオのメロディーはそれじゃないかな。精神の解放っていうのかな。とにかく魅力を話し出したらきりが無いよ、このグレイトは。

——— 4楽章について…

山下：美しさは二つあって、知の美しさと情の美しさ。愛とか悲しみとかの情の美しさもあるけれど、この4楽章は全く知の美しさだと思うよ。非常に整然としているでしょ。構成とか音の並びとか。これが“知”の美しさだよ。それと同時に自然な高揚感があるじゃない？要素としては単純なものしかないの。一つの間にさくさく高揚してくるよね。あれは不思議なような気もするけれど、それがとりも直さず“知”なんだよね。

——— 最後に…

山下：今までの話を総合するなら、音楽の全ての魅力がここにあると言っても過言ではないね。本当にいろんな要素があるので、お客さまにそれを是非楽しんでもらいたいね。

————— 6月15日練習後に焼き肉屋のテーブルにて

## ■出演者名簿

### ●コンサートマスター

高木 範貢

### ●第1ヴァイオリン

大江 紀子

佐藤 弘美

田野 育美

鶴 和美

永田 とし子

広瀬 卓

福島 幸代

水上 慎太郎

### ●第2ヴァイオリン

石原 圭子

石田 素子

大宮 伸二

岡田 江身子

木村 宣子

清永 健介

佐美三 治子

中村 友美

馬 達

### ●ビオラ

和泉 希代子

太田 由美子

大塚 節

田代 典子

毎床 一寿

松野 多恵

吉岡 英子

### ●チェロ

井石 哲也

坂本 一生

四家 卯大

篠原 いずみ

渋谷 統

松本 幸二

山中 朗史

### ●コントラバス

古泉 俊彦

塩田 英治

中村 哲

### ●フルート

近藤 理円

中島 美穂子

### ●クラリネット

寺尾 由貴

西村 栄子

### ●オーボエ

宮原 道生

吉田 智子

### ●ファゴット

柴田 義浩

蓮沼 昇

### ●ホルン

伊藤 友美

後藤 滋

齊藤 恵之

原田 光

### ●トランペット

出口 文教

福島 敏和

### ●トロンボーン

小多 崇

古澤 浩幸

税所 充夫

### ●ティンパニー

佐藤 寿美子

## ■The Sinfoniettaについて

The Sinfonietta は 現在40名ほどのメンバーからなる 小規模のアマチュア・オーケストラです。技術的に未熟な点も多いのですが、よい指揮者・支援者に恵まれ一生懸命活動を続けています。最近メンバー不足(弦楽器)が悩みのタネとなっています。練習にちゃんと参加できて音楽を愛し、我々といっしょにオーケストラをやってみようという方はいらっしやいませんか。くわしいお話は下記まで御連絡下さい。

〒861-35 上益城郡矢部町浜町299 坂本一生

TEL0967-72-4143 FAX0967-72-4495